

ひとはく通信

ハーモニー

123

Dec. 2023

高校生・大学生と連携した
学びの場づくり



大阪出身の在野の甲虫研究家であった芝田太一氏のコレクションが、2023年6月に大阪甲虫同好会の皆様のご厚意により寄贈されました。コウチュウ目のほとんどの科が網羅された約48,000点の大規模なコレクションで、関西をはじめとする日本国内の甲虫類だけでなく、東・東南アジアのような国外のものまで幅広く集められています(図1)。

氏のコレクションの大きな特徴は、芝田氏と氏を取りまく大阪甲虫同好会のメンバーによって構築されたものであるということです。普通種や希少種を問わずできるだけ多くの種類・個体数が集められ、科・種ごとに体系立てて整理されたコレクションとなっています。このことは、将来にわたって研究に活用されやすいよう甲虫類の全体像が把握できるようなまとまったコレクションの重要性を芝田氏が強く意識していたからです。

芝田コレクションは大阪甲虫同好会の発展に寄与してきただけでなく、国内外の多くの分類研究に用いられてきました。新種発表の際の基準となるタイプ標本(図2)や、研究に用いた証拠標本などが膨大に含まれており、歴史的・学術的な価値がきわめて高い、まさに日本を代表する甲虫コレクションといえましょう。当館へご寄贈くださった大阪甲虫同好会の皆様(図3)に心から感謝いたします。

山田 量崇(系統分類研究グループ)

[参考文献]

林 靖彦(2016) 芝田太一. 関西甲虫研究史 13. 日本甲虫学会・大阪市立自然史博物館, 大阪.



図1 芝田コレクションの一部(ヒョウタンゴミムシ類)



図2 芝田コレクションのタイプ標本



図3 大阪甲虫同好会の皆様

トピックス

新入研究員紹介



人を含む動物のコミュニケーションがどのように機能しているのか知りたくて、現在は主に「小鳥はどのように歌って踊るのか」について研究しています。よろしくお願ひします。

研究員 太田 菜央

